

取締役副社長 統括本部長  
(財務担当役員)

## 山中 雅文

### Profile

1978年株式会社三松、1988年株式会社トリイ(現・株式会社AOKIホールディングス)に入社、株式上場準備を担当し同社は1990年に名証2部上場。1995年当社入社。株式上場準備の責任者として、1999年9月に名証2部、2000年12月に東証1部への株式上場に貢献。その後、2004年に取締役財務部長、2006年6月には常務取締役としてコーポレート部門の責任者である統括本部長に就任、2012年に専務取締役、2016年に取締役副社長、一貫して統括本部長を務め、現在に至る。



# 中長期的な企業成長の実現に向け 適切な株主還元と成長投資を進めます。

## ROE20%以上、総還元性向100%以上を目標に 株主価値のさらなる向上を目指します。

2025年5月に発表した中期経営目標では、ROE(自己資本当期純利益率)の目標値を「15%以上」から「20%以上」に引き上げました。直近の数年は増収増益を継続していることから、ROEも2023年度には17%へ、さらに2024年度には18%へと継続的に上昇しています。目標を据え置いたままでは、将来の成長性に対して株式市場からの懸念を招くことから、実現可能な財務目標としてROEを20%以上に引き上げました。

この目標を実現するには、利益成長が極めて重要であることはもちろん、自己株式取得や配当政策を通じた自己資本の圧縮も有効な手段となります。そこで、2024年度に「80%以上」と設定していた総還元性向を、2025年度から2027年度までの3か年にわたり「100%以上」へと引き上げ、毎年一定の自己株式取得を実施する方針としました。資本効率を最適化し、ROE20%以上を目指していきます。

USSは、現在1,000億円超の現預金を保有しており、非常に健全な財務基盤を維持しています。株主還元に充当予定の約300億円を差し引いた後も潤沢な手元資金を確保できることから、

財務面で問題が生じることはない判断し、積極的な還元方針を採用することとしました。

同時に、オートオークション事業を中心に、2025年度から2027年度までの3か年累計で500億円の成長投資を計画しています。設備投資や人員強化、オークションシステム刷新によるDXなどを進め、この成長投資を基盤に事業拡大を実現し、着実に利益を拡大させていきます。

こうした取り組みによって、株価や将来成長への期待も向上させていく考えです。現在、企業の将来的な成長性を評価する指標の一つであるPER(株価収益率)は20倍にまで上昇しています。この水準をキープするべく、継続して利益成長に向けた事業戦略と資本政策を両輪で進め、株主価値のさらなる向上を目指します。

## 強固な財務基盤で株主還元と成長投資をさらに拡充し 中長期的な企業成長へとつなげていきます。

今後のキャッシュアロケーション方針としては、2025年度から2027年度の3か年累計で、営業キャッシュフロー1,400億円を想定し、「高い総還元性向を維持しつつ、中長期的な成長に必要な投資を実施」「2027年度までの3か年累計で、500億円以上の成長投資を実施」「M&Aや業務提携による出資などは別枠で検討」という3つを軸とします。

成長投資については、オートオークション事業に合計470億円程度を投資する予定です。このうち、横浜、東京、HAA神戸の3会場の新築建替えや立体駐車場の増設に420億円程度、現在進めているオートオークション基幹システムの刷新に50億円程度投資する計画です。これらの投資によってまずは市場シェア45%の実現を確実なものとしていきます。

リサイクル事業への投資については、今後需要の増加が期待されるアルミニウムや太陽光パネルをはじめとした資源リサイクル事業(株式会社アビゾ)に、約30億円の投資を予定しています。

株主還元については、引き上げた「連結配当性向60%以上」「総還元性向100%以上」に照らして3か年で1,200億円程度となる見込みです。

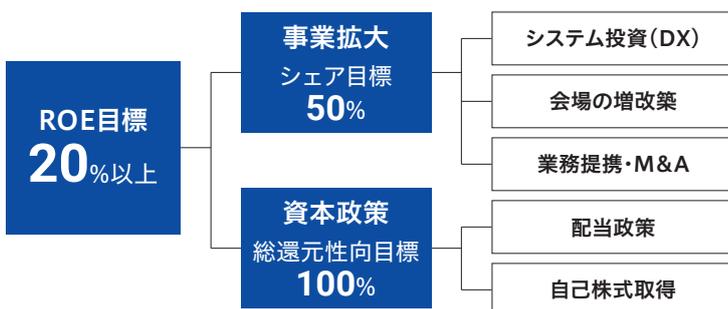


取締役副社長  
統括本部長(財務担当役員)

山中 雅文

### ROE向上のための施策

#### ROE向上のKPIと施策



#### ROEの算定式/改善方針

